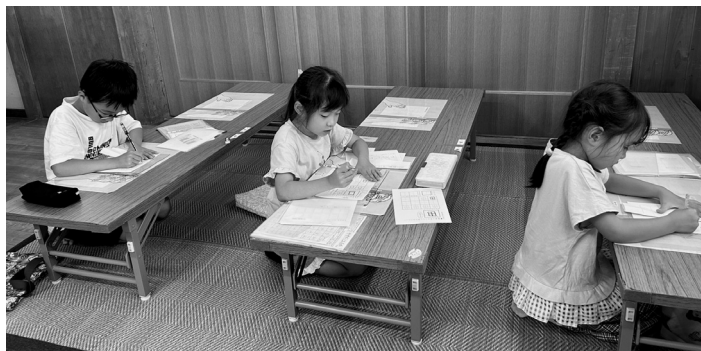


書塾の仲間たち

第 256 回

書写書道教室ここん（静岡県静岡市）

教室キャラクター ここんちゃん



●書塾からひとこと●

「書写書道教室ここん」では静岡市葵区古庄と清水区今泉の二教室で、小学生を中心に幼児から大人の方まで幅広い方が書写書道を学んでいます。教室の名称「ここん（古今）」は、地名（古庄・今泉）から名付けましたが、古くから伝わる手書き文化を今の時代にもしっかり伝えていきたいという思いも込めています。

当教室では、お手本の通りに美しく書けるだけでなく、お手本がない日常の手書きでも整った文字で書けるようになることを目指して指導しています。そのために、筆記具を正しく持ち思い通りの線が書けるようになること、基本点画やひらがなの基本線がしっかり書けるようになること、習っていない字にも応用できるよう、整え方のルールを学ぶことといった基礎を大事にしています。

入会したらまずは基礎を学び、力が付いてから月刊「書写書道」誌の毎月の課題に挑戦しています。子どもたちの吸収力は素晴らしい、小学校高学年になる頃には自己修正する力まで付き、私が指導するより先に「どこが良くなかったか、次はどこに気をつけて書くか」を言えるようになるなど、彼らの成長に驚かされ感動することもしばしばです。

指導を通して日々実感するのは「継続は力なり」という言葉です。お稽古の成果が出る時期に個人差はありますが、書くことが好きで続けていけば必ず上達します。楽しく続けて美しく整った字を身に付けてもらえるよう、一人一人をよく見て、「啐啄の機」を逃さない指導をしていきたいと思っています。

美しい字が書けることが自信となり、いろいろなことに挑戦する力となることを心から願っています。

書写書道教室ここん 小山 尚子

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



小四 宮崎理世



きれいな字を書けるすてきなお姉さんになりたい

長野県松本市立筑摩小学校四年 宮崎 理世

わたしは小さいころから字を書くことが好きでした。「もっときれいに書けると楽しいよ」とお母さんにすすめられたのをきっかけに、一年生の時に書道教室に通い始めました。

書道教室に通い始めたときは、鉛筆の持ち方から先生に教えてもらいました。これまでのわたしの持ち方は正しい持ち方ではないことを知りましたが、初めはすぐに元の持ち方にもどってしまいました。それでも先生がやさしくアドバイスしてくれたおかげで、今では正しい持ち方で書くことができるようになりました。

書道を習い始めて一年がたったころに、学校で市の文化祭に応募した硬筆作品が初めて賞をもらい、美術館での作品展になりました。初めて賞状をもらったこと、家族にほめられたことがとてもうれしく、書道教室に通ってよかったと思いました。

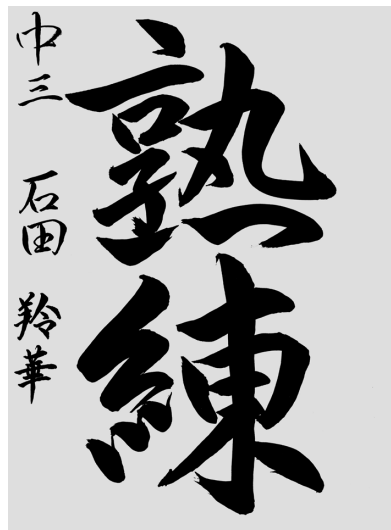
今年のお正月には、いとこのお姉ちゃんと書初めを書き、新聞社の書道コンクールに応募してみました。書道教室で練習した成果をここでもはっきてきてよかったです。

また学校の習字のじゅ業で「上手だね」と言われることもとてもうれいんです。でもわたしよりもっと上手な人もいるので、これからもがんばって練習したいと思います。

将来は、気持ちをこめて、きれいな字を書けるすてきなお姉さんになりたいです。今は一画一画でいねいに字のバランスに気をつけながら練習しています。

高校生になった時に、わたしがどんな字を書けるようになっていのかを考えるとわくわくします。

私と書写書道 第256回



中三 石田 羚華



書道で振り返る私のこれまで

長野県松本市立鎌田中学校三年 石田 羚華

私は、母が書く綺麗で達筆な字に憧れ、それに少しでも近づきたいという思いから五歳の時に書道を始めた。習い始めて今年で九年になる。

書道を習って良かったと思うことは、二つある。

一つ目は、学校の先生や友達に字を褒めていただけることだ。それが私の書道を続けるモチベーションに繋がりが、今日まで楽しく書道を続けられている。

二つ目は、私に通っている書道教室で開催されている書写技能検定試験を受験出来ることだ。試験の難易度が上がるほど、手元に届いた合格通知が、私の自信へと変わっていく。

来年、私は高校受験を控えている。勉強、部活動、そして習い事である書道の三つをバランスよく同時進行していくことの難しさを実感することになるだろう。勿論、書写技能検定試験が今より高度な技術を求めることは容易に想像がついている。しかし、私はどれだけ難しい技術を求められなくても書道を『楽しむ』ことを忘れずに果敢にチャレンジしていきたい。

最後に、今まで私に書道における技術面、さらに礼儀・作法や物事に対する姿勢を九年もの長きにわたってご指導下さっている先生方にこの場を借りて感謝を申し上げる。これからも『楽しむ』ことを忘れず、書道に真摯に取り組んでいきたい。